

ゼネラル エレクトリック(GE)

【セクター】 資本財・サービス

【市場】 NYSE

【企業概要】

米国の産業機器の最大手で、航空機エンジンをはじめ、発電機、医療画像診断機器、水処理設備、一般工業製品などの幅広い製品とサービスを提供します。かつては金融、メディアなどを含むコングロマリットでしたが近年は産業機器分野に集中、さらに照明、鉄道車両、オイル&ガス等の事業も切り離してきました。業績不振による株式時価総額の減少を受けて18年6月にNYダウ指数の構成銘柄から外れています。

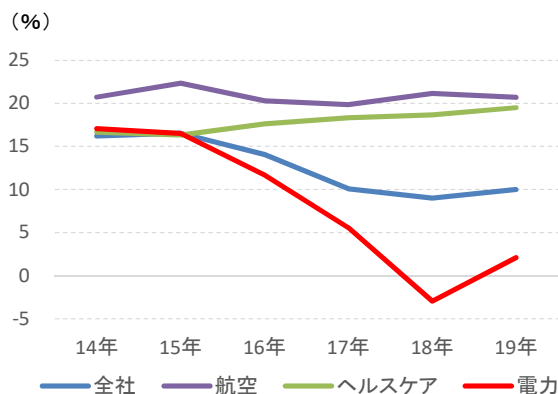
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年12月期	121,616	5,664	0.65	0.37	3.6	13.0	16.8
19年12月期	95,215	5,610	0.64	0.04	3.2	18.9	-
20年12月期予想	90,512	4,884	0.60	0.04	3.3	12.7	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【主要指標】

図表1 全社と主要部門の営業利益率推移



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

図表2 部門別受注・売上のオーガニック成長率（%）

19年10-12月期（前年同期比、%）

部門	受注	売上
電力	-28	5
再生可能エネルギー	-10	4
航空	23	7
ヘルスケア	3	1
産業部門計	-3	5

（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

資本財大手のダナハーから転身したカルプCEOのもと事業のリストラを推進中で、喫緊の課題は電力部門の収益立て直しと不安定な財務状況の改善です。電力部門は、火力発電市場の低迷に加え、過去の受注条件が悪かったことなどが要因となっており、立て直しには複数年かかると見込まれています（図表1）。財務状況については、バイオファーマ事業を210億ドルでダナハーに売却する意向（現在、当局による承認待ち）で、これが実現すれば資金繰りはかなり楽になるとみられます。

【見通し・注目点】

19年10-12月期についてCEOは、「航空部門とヘルスケア部門は利益を伴った成長を達成し、電力部門も安定しつつある」とし、産業部門の調整後純利益は前年同期比58%増と改善しました。また、20年12月期のガイダンスは調整後EPSが0.5~0.6ドル、産業部門のフリーキャッシュフローが20~40億ドルと市場予想は12億ドルを大幅に上回りました。会社の業績見通しはボーイング「737 MAX」について、年央の飛行再開を前提としています。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 20/2/19）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。